

官軍は兵を分ちて二となし此の砲台を攻撃す、長兵も屈せず烈しく防戦せり、午の刻過午後一時に至り東軍の砲聲少しく減するが如し

時に嚴島須尾浦より和船四隻來り玖波村砲臺に向つて發砲す、其の彈丸は砲台の上に於て破裂し又一丸は右側砲臺を破る四船順次砲撃して嚴島浦に退く、代つて軍艦二隻（公邊朝日丸紀州明光丸の二隻砲戦し藝藩の震天丸は後方にありて見物せり）嚴島浦より來り玖波、小方に向つて砲撃す、是に於て在砲台の長兵は砲臺を捨て玖波村の後山に登りて東軍を防ぎ又玖波、小方村の長兵も苦戦して谷村（栗谷村）に退却す、東軍は勝に乗じ小方村に至り鍋倉山（大竹村北方高地大河原ともいふ）附近に於て激戦し其軍艦は終夜海上に在て空砲を發して敵を威嚇す、又其の一軍は幕兵及び紀州藩兵にして辰の刻（午前八時）より峠村攻撃のため宮内村折敷畑山下より開戦して進み互に進退あり、長兵は火を平良村農家に放ちて戦ふ、夕酉の刻（六時）に至り止戦す、此の際長兵の死傷者二百餘人に及びたりと